

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2013.03) 平成23年度:58-59.

病棟・外来での患者情報共有の取り組み

吉田美幸、藤井幸恵、太田一美、前田佳織、布川千恵美、
市村知佐美、樋口知子

病棟・外来での 患者情報共有の取り組み

旭川医科大学病院 5階東病棟
吉田美幸・藤井幸恵・太田一美
前田佳織・布川千恵美・市村知佐美・樋口知子

背景

乳癌治療は「薬物」「手術」「放射線」である。看護ケア提供部署も複数のため、各部署での連携が重要となる。A病院でも2010年度の手術件数は、200件を超えており、各部門での看護連携が必要とされている。

目的

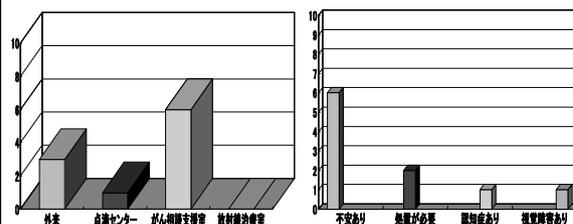
乳癌看護連携についての取り組みと現状報告

方法

電話または看護サマリを利用し、2010年6月から取り組みを開始した。病棟と乳腺外科外来・外来点滴センター・がん相談室・放射線治療室での1年間の継続看護の件数と内容を集計した。

結果①

他部門から病棟へ:計10件



結果② 病棟から他部門へ:計21件

乳腺外科外来への継続:6件

- ・経済的不安ありMSWへの介入必要
- ・母子家庭のため、経済的不安あり
- ・若年性乳がんのため、妊娠・結婚生活への不安あり
- ・創傷ケアが必要
- ・家族サポートが不十分なことへの不安あり
- ・疾患への不安が強い

結果②

病棟から他部門へ:計21件

点滴センターへの継続:4件

- ・情報提供へのフィードバック:3件(ハーセプチン継続)
- ・術後に抗がん剤治療の可能性が高い

がん相談室への継続:6件

- ・通院時以外での電話対応の希望あり:6件

結果一② 病棟から他部門へ

放射線治療室への継続: 5件(全例術前化学療法後)

- 遠方のため、治療時の時間調整が必要
- 放射線治療への不安あり: 4件

考察

- 患者が抱える不安の内容・時期は多岐に渡るため、それぞれの部門での連携が重要である。
- 継続看護の内容はさまざまであり、継続基準・システムの構築が必要である。

まとめ

乳がん看護連携への取り組みについて病棟からの報告を行った。今後も質の高い乳がん看護提供のために、継続看護を実践していきたいと考える。

筆頭演者の利益相反状態の開示

すべての項目に該当なし